

『守本悠一郎氏 インタビュー』

デザインファーム eau 代表である守本悠一郎氏に
山びこの創作活動についてお話を伺いました。

※以下の文章は、長時間のインタビューを抜粋・再構成したものです。

土橋：守本さんには昨年からグループIの
創作を手伝ってもらっているのですが、
空色手ぬぐいをブランディングしていく
上で大切にしていることはありますか？

守本：大切にしているのは極力着飾らな
いってことです。でもこれって空色手
ぬぐいがあるのままで素敵だから成り立
つことなんだよなって思います。



hicobaeにてインタビュー。左が守本氏。

土橋：自分たちで作っている商品を職員が展示販売をするときにどうしていけば良いのか、
悩んだり、迷ったりすることもあります。そんな時に守本さんに協力してもらって展示会
でレイアウトしてもらおうと普段と全然見え方が違うからこっちも商品に対する見方が変
わって…。

守本：実は自分たちで作っている商品の良さって中々気付けないですよね。人間が自分の
強みに気付けないのと一緒に思うんですけど、僕は外から山びこの商品を見たから空色



昨年度の「空色てぬぐい展」

手ぬぐいの藍染めの美しさに気付けたと思いま
す。展示会の時には手ぬぐいを空中に浮かべてヒ
ラヒラさせたんですよね。光も透き通るし風にそ
よぐ姿が昼下がりの青空の下にいるイメージを与
えられるかなって考えました。hicobae 全体でそ
ういう雰囲気を作りたいなど。

土橋：今年度は実際に守本さんに創作の現場に入ってもらいながら空色手ぬぐいのブラン
ディングを進めたんですが、その中で印象に残ったことはありますか？（※月に1回創作
の時間に来ていただきました。）

守本：コンサル視点になってしまうんですが、障害のある方の作ったものを売る時にクオ
リティを上げるということはちょっと違うかなと感じました。商品のことを考えている時
は買う人の事より作る利用者さんのことを考えていました。その楽しく作ったものを購買
者に橋渡しするのが僕らの仕事かなと思います。そういう事を考えながら、手ぬぐいに糊
を付ける際にパピコ（アイス）の容器を使ってみたらどうかな？とかグルグル頭で考え
ていました（笑）

土橋：クオリティを追求すると苦しいんだろうなって思いつつも、でもクオリティを追求
しないって思いもあって。まあ、そのあたりのバランスなのかなと感じます。職員
がどうもっていけばいいのかって悩んだ時に外部の方、例えば守本さんに来てもらって一
緒にやっていくということが1つの解決策だった気がします。eau にも協力いただいて
hicobae に空色ブースができました。多くの方の目に触れる機会が増えると思うんでこれ
からもっと知ってもらえたらなって思いますね。

守本：僕の中では商品ができてラベルができてブースができ
てやっといいものになったかなって感じです。あとは hicobae
にデザインの息が掛かった商品が置かれる事で hicobae の他
の商品にも伝搬していったらなって思います。引っ張られて
一段上がっていったら嬉しいですね。



hicobaeの空色ブース

土橋：守本さんお忙しい中ありがとうございました！



守本 悠一郎 (もりもと ゆういちろう)

eau 代表 / デザイナー

1994年、静岡生まれ。2018年、武蔵野美術大学卒業後、デザ
インファーム eau (オー) 設立。クライアントとの打ち合わせを
大切にし、水 (=eau) のように澄んだデザインを生み出している。
JID AWARD 2018 受賞。



HP <http://o-eau.com>